

「サドルを盗む～人間、そして、私の二面性」

●サドルを盗む

20年に亘って自転車のサドルを盗み続けた人が逮捕されたとラジオのニュースで聞きました。

その人は、長距離トラックのドライバーという、日々の私たちの生活を支える仕事を生業なりわいにしていますが、ある時、ストレス解消のために2台の自転車のサドルを盗んだのがきっかけで、逮捕されるまで続けたといいます。

20年間、日本各地で盗んだサドルの総数は、5800個にも及び、しかも、自身で借りていた倉庫にすべて保管していたといいます。

置く場所に困った時点で、やめられそうだと多くの人は考えますが、彼のとった行動は、倉庫を借りることだったのです。

不謹慎と思われるかもしれませんが、また、サドルを盗まれた当事者は大変お困りだったと思いますが、私は、なんだか滑稽こっけいに思え、しかも複雑な気持ちになりました。

なぜ、私にとってこのニュースはそう感じられたのでしょうか。

●抱えているもの

ごく一般的に考えると、盗みの第一の目的は、自分の生活の経済的な負債を補ったり、あるいは逆に、今の自分の生活を経済的に潤したりするために行うのではないのでしょうか(一般的な盗みというのは妙な表現ですが……)。

ところが、この男性の盗みの目的は違うように思えました。なぜなら、サドルを売って生活を少しでも楽にしようとか、サドルを資金にして趣味を満たそうとしている様子は考えられません。なにしろ、倉庫まで借りて、ため込んでいるだけなのです。

ストレスの解消のため最初に手を出したのが、たまたま、サドルだったのでしょうか。それとも、もともと、サドルに強い関心を持っていたのでしょうか。ニュースだけでは分かりません。

(いや、世の中には、もっと違うもの、一般的に言えば、サドル以上に思いもよらないものばかりを人知れず盗んでいる人がいるかもしれません。)

ストレス解消だった盗みをするという行為が、その後、その人の人生の大きな部分を占めて、ある意味、人生の目的にまで変化していったのかもしれませんが。

いずれにせよ、この話が人ごととは思えないのは、たとえ盗みをしなくとも、人は、外からは見えない、あるいは想像できないような二面性を抱えて生きていないかと思うからです。

●自分を照らす光

心理学の「ジョハリの窓^(*)」という学説によると、私たちには、四つの自分があるといいます。

- ① 自分と他人が共に知っている自分、
- ② 自分だけが知っている自分、
- ③ 他人だけが知っている自分、そして、
- ④ 他人も知らないが自分も知らない自分です。

先の話は、②と重なりますが、誰も自分の中に、人に見せない自分があることは、これを読んでいる皆さんにも当てはまることだと思います。

私たちは、人として、こうしてはいけない、本来は、こうすべきだということを程度の違いこそあれ、学んでいます。そして、自分にそう言い聞かせて、日々を生活していると思います。

しかし、理屈では知っていながら、そうできていない自分があることも事実です。それが人に見せていない自分です。

仏さまの教えを学ぶ生活にも、同じようなことを感じます。教えを聞いて育てられた自分がありますが、生まれながらの自己中心の煩惱を抱える自分も確かにいます。

この二つの私がいるからこそ、この世を生きるときに、お恥ずかしい、もったいないという葛藤が心に生まれてきます。そして、そのような葛藤が生まれてくることが、仏教という生き方を求めている証拠でもあります。

「法身の光輪ほっしん こうりんきはもなく 世の盲冥せ もうみょうをてらすなり」(『浄土和讃』)

と親鸞聖人はお示しになります。

法身とは、おさとのりの仏のことです。その仏さまの教えは光とも呼ばれます。

光輪とは、面白いたとえの仕方ですが、水面に石を放り込むと波の輪が広がるように、仏の教えが、外へ外へと広がる様子です。

盲冥という言葉に親鸞さまは、左訓さくんといって、自ら説明書きをされて、「めしいたるもの、くらきもの」と示しています。

あるがままの姿が見えていないもの、それは、自分を照らす光に出遇うことなく暗い状況の中にいる者とでもいった意味でしょうか。

浄土真宗という教えは、光とたとえて語られてきました。この光に照らされて、私たちは気づかなかった自分の姿を知らされ、その光に導かれ、少しでも仏さまのお心を大切に生活に育てられると新たな歩みが生まれます。

犯した罪は裁かれるべきものです。しかし、罪を犯した人を見つめる私の眼差しには、どんな人間であろうと、私たちは同じように二面性を抱えているのだと照らしてくださる光、自分の都合を超えた光が大切だと思いました。

※「ジョハリの窓」

1955年、サンフランシスコ州立大学の心理学者ジョセフ・ルフト (Joseph-Luft) とハリ・インガム (Harry-Ingham) が発表した「対人関係における気づき」を後に「ジョハリの窓」と呼ぶようになった。人間は、自分をどのように公開しているか、あるいは、隠蔽しているかを自覚することで、コミュニケーションを円滑にするのに役立てようとした。

合掌

万行寺第十八世住職 釋靜芳(本多 靜芳)

※ご縁のあったあなた！ 第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で『親鸞様・御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」で『親鸞様・御手紙』を学びにいらっしやいませんか？ お待ちしてます(会費はいずれも資料・茶菓代として千円です)。

「ナムの会」は一月と十二月は休会します。